

# JUSE SEMINAR GUIDE 2012

## ソフトウェア品質



財団法人 日本科学技術連盟  
教育推進部 第二課

# セミナー受講ガイド

## PMP® 向けのPDU発給について

(財)日本科学技術連盟はPMP® 認定教育プロバイダー(REP)であり、「SQiP」セミナー、研究会、シンポジウム2012は、PMP® 向けのPDU発給の認定申請中です。

		主な対象職種※				外部提供セミナー (デバッグ工学研究所) テスト技法関連
		ソフトウェア 開発エンジニア	ソフトウェア 品質エンジニア	ソフトウェア プロセスエンジニア	ソフトウェア プロジェクトマネージャー	
レ ベ ル	上級					モダンソフトウェア テストアカデミー :プロフェッショナルコース (p.11) SQiPテストプロ
	中級	実践!ソフトウェア品質向上のための原因分析セミナー (p.7) SQiP原因				
		実践!管理者のためのソフトウェア品質マネジメントセミナー (p.5) SQiPPMC				
		XDDP導入・活用による開発プロセスの改善セミナー (p.16) XDDP実践				
		実践!直交表、All-pair法を用いた組合せテストと状態遷移テスト修得セミナー (p.14) SQiPテスト実践				テスト技法とテストケース演習 :開発技術者向け (p.10) SQiPテスト開発技術
		実践!ソフトウェア品質保証のためのメトリクス活用セミナー (p.8) SQiPメトリクス中級				
		実践!プロジェクトマネジメントセミナー (p.6) SQiPPM				
	実践!ソフトウェア品質向上のための技術者セミナー (p.4) SQiPEC					
	初級	ソフトウェア品質部門のためのXDDP入門コース (p.15) XDDP入門				
		JSTQB-FL認定ソフトウェアテスト技術者 -Foundatiou Level トレーニングコース (JSTQB-FL公認) 開催準備中				
		2日でマスターするソフトウェアテスト (p.12) ST				※4月以降Webサイトに 掲載
		ソフトウェアテスト技法ドリルセミナー (p.13) SQiPテスト応用				効果的な受け入れテストの 設計と実践セミナー (p.9) SQiP受入テスト
ソフトウェア品質技術者初級セミナー (p.2) SQiP初級 JCSQE対応						
基礎から学ぶ ソフトウェアメトリクスセミナー (p.3) SQiPメトリクス初級						
基礎から学ぶ ソフトウェア品質マネジメントセミナー (p.1) SQiP入						

※「主な対象職種」は、これ以外の職種の受講を妨げるものではありません。

※次ページ以降の「参加費」はすべて消費税込みの価格です。

※掲載内容は2012年1月10日現在のものです。

※日程、カリキュラム、会場等は、諸事情により変更する場合があります。

※万一最低開催人員に満たない場合は、セミナーを中止または延期することがあります。

※最新情報は日科技連のホームページをご覧ください。 <http://www.juse-sqip.jp/>

～品質意識向上に役立つ入門コース！ 品質の基礎学習に最適～

(略称)  
SQiP入

# 基礎から学ぶ [Renewal!] ソフトウェア品質マネジメントセミナー

参加費無料

本セミナーは、ソフトウェア品質マネジメントについて、「言葉の定義の理解」、「基本的な考え方」、「現実的なマネジメント方法」といった基礎的なノウハウをわかりやすく学ぶことができます。ソフトウェア品質関連セミナーを体系的に紹介しますので、教育派遣担当者の方にもご参加をおすすめいたします。

## コースの特色

- 基礎知識だけにとどまらず、国際標準（ISO、PMBOK TMなど）を含め、最新の動向も知ることができます。
- 情報サービス業界各社で実際に使用されているプロセスを通して品質管理のノウハウを学ぶことができます。

## こんな方におすすめします

- あらゆる分野でソフトウェアの開発・生産に従事している技術者・管理者の方々
- これからソフトウェア品質マネジメントに携わる方、もう一度基礎から品質マネジメントを習得したい方々

## 参加者の声

- テキストの説明と同時に他社事例などの説明もあったので、項目ごとに理解することができて良かったと思う。
- ベンダー側の品質管理に対する意識や管理方法について理解することができた。
- ソフトウェアの品質もハードウェアの品質も基本は同じであることが理解できた。

## カリキュラム

半日

時間	科目	主要内容
13:00～17:00	ソフトウェアの品質管理	ソフトウェアの品質とは ソフトウェアエンジニアリング ソフトウェア品質保証の変遷 国際規格・フレームワーク ソフトウェア・プロセス（開発方法論）
	品質管理事始め	品質概念の進化 品質管理の基本的考え方 品質指標・生産性指標
	ソフトウェア品質向上のための教育ご案内	
	品質保証活動の基本的考え方	品質保証体系 レビューの実施方法 クレーム管理と再発防止

回数	開催日
1	4月23日(月)
2	9月27日(木)

会場 日科技連 東高円寺ビル  
講師 河合清博（情報サービス産業協会）  
参加費 無料

～本コースオリジナル「ソフトウェア品質 一連の演習」にて  
教育効果が倍増します！～

(略称)  
SQiP初級



# ソフトウェア 品質技術者初級セミナー

～「ソフトウェア品質技術者資格認定制度 (JCSQE)」対応コース～

本セミナーでは、『ソフトウェア品質知識体系ガイド (SQuBOK Guide)』(p.22 参照) に基づいたソフトウェア品質技術を体系的に、短期間で効率的に解説します。「レビュー技法→テスト設計技法→品質分析→再発防止」の一連のグループ演習で「ソフトウェア品質」の実践スキルを身につけることができます。

## コースの特色

- ソフトウェア品質技術を体系的に、短期間で効率的に学べます。
- 「欠陥除去と作り込み防止」に重点を置いて解説します。
- 演習では本コースオリジナルのMP3プレーヤーの題材を一貫して用います。

※「ソフトウェア品質技術者資格試験」(JCSQE)とは

2008年12月に新設されたソフトウェア品質技術者資格制度 (JUSE Certified Software Quality Engineer) は、「すべてのソフトウェア技術者に品質技術を！」をコンセプトに初級、中級、上級の3段階の資格で構成しています。初級資格試験は、今まで7回実施しており、受験者数は合計約2,000名、合格者も合計700名近くに達しています。

※詳細は19ページをご参照ください。

## こんな方におすすめします

- ソフトウェア品質に関するすべての技術者
  - プロジェクトの一員として開発業務や品質管理業務などを担当したことがある方
  - 技術者・管理者・品質保証担当として次のステップを目指す方
- ※「ソフトウェア品質知識体系ガイド-SQuBOKガイド」を、少なくとも一回は読んだことがある程度の知識レベルの方が参加されるとより教育効果が高まります。

## 参加者の声

- これまで現場で行っていたバグの原因分析は“悪い例”であり、本質的な原因分析の必要性を実感することができ、非常に有益であった。
- 講義→演習という流れが、理解を深めるためには一番効率の良い方法であると感じ、実のある時間を過ごすことができた。

## カリキュラム

2日間

	時間	科目	主要内容
1日目	9:30~10:45	ソフトウェア品質マネジメント概論	品質の考え方、品質のマネジメント
	10:55~14:35	レビュー技法 (演習含む)	観点別レビュー、チェックリスト、インスペクション、グループ演習
	14:45~17:35	テスト技法 (演習含む)	テストとは、テストケース設計、主要なテスト技法、テストケース作成の演習
2日目	9:30~12:10	品質メトリクス (演習含む)	定量的管理の意義、プロダクト・プロセスメトリクス、テスト管理、グループ演習 (テスト管理図の見方)
	13:10~15:50	再発防止 (演習含む)	バグ原因分析、再発防止、グループ演習 (原因分析)
	16:00~17:30	ステップアップのために 質疑応答、まとめ	セミナーの振り返り、ステップアップに向けて

回数	日程
1	4月24日(火)~25日(水)
2	6月25日(月)~26日(火)
3	10月 9日(火)~10日(水)
4	2月12日(火)~13日(水)

**会場** 日科技連・東高円寺ビル

**講師** 香村 求 (システムSWAT 代表取締役)  
辰巳敬三 (富士通株)  
野中 誠 (東洋大学 経営学部 経営学科 准教授)  
堀田文明 (有デバッグ工学研究所 技師長)  
誉田直美 (日本電気株) ITソフトウェア生産技術・品質保証本部  
兼ソフトウェア生産革新部統括マネージャー)

保田勝通 (つくば国際大学 産業社会学部 産業情報学科 教授)  
湯本 剛 (日本ヒューレット・パッカード株) シニアコンサルタント

をはじめ、ソフトウェア品質に関して経験豊富な実務家・専門家が指導にあたります。

**参加費** 68,250円 (一般) / 63,000円 (会員)

～メトリクスで事実をつかみ、改善につなげる！～

(略称)  
SQiPメトリクス  
初級

# 基礎から学ぶソフトウェア メトリクスセミナー

- あなたがいま開発しているソースコードについて、その品質を把握できているでしょうか？
- あなたがいま実施している開発プロセスは、どのくらい有効でしょうか？
- それらを改善するとしたら、どこから、どのように始めればよいでしょうか？

このセミナーでは、プロダクトとプロセスの状況を把握するメトリクスの基礎について、体系的・具体的に説明します。さらに、メトリクスを活用して、プロダクトやプロセスを改善する方法を演習で学びます。品質保証担当者はもちろん、プログラマやマネージャの方など、ソフトウェアに関わるすべての方にぜひ学んでいただきたい内容です。

なお、本セミナーの内容は『演習で学ぶソフトウェアメトリクスの基礎』に基づいています。参加費には同書籍代が含まれています。

また、演習では C++ や Java のソースコードを見る演習がありますが、これらの言語のプログラミング経験がなくても十分に理解できる内容です。

## コースの特色

- ソフトウェアメトリクスの基礎と理論を、体系的に説明します。
- プロダクトとプロセスのメトリクスの両面を取り上げます。
- 単に測るだけでなく、その解釈の仕方や、改善のヒントを解説します。
- 個人やグループでの演習を通じて、理解を深めます。
- 表計算ソフトウェアや統計解析ツールを用いた実践的な演習を行います（パソコン使用）。
- 『演習で学ぶソフトウェアメトリクスの基礎』の訳者が講師です！

## こんな方におすすめします

- プロダクトとプロセスの状況を把握し、これを改善したいソフトウェア開発技術者、品質管理・保証担当者、プロセス改善担当者

※当コースのアドバンスコースである「実践！ソフトウェア品質保証のためのメトリクス活用セミナー」はP.8に掲載しています。

## 参加者の声

- メトリクスにもいろいろな観点があり、理解が広がり、ファンクションポイントの使い方がわかった。
- ヒストグラムや散布図をデータと比較しながら見ることができ（ばらつき等）、理解しやすかった。
- グループディスカッションでは他社の自分とは違う立場の人との話し合いができ、良い刺激を受けた。

## カリキュラム

2日間

	時間	主要内容
1日目	9:30～12:30	イントロダクション、メトリクスの基本 システム機能規模に関するメトリクス
	13:30～17:00	ソースコードに関するメトリクス（規模、複雑度） プロダクトメトリクスに着目したソースコードの改善（+グループ演習）
2日目	9:00～12:30	欠陥数の予測（データ分析、レイリーモデル） プロダクトと欠陥のメトリクスに着目したプロセスの改善（+グループ演習）
	13:30～17:00	プロダクトと欠陥のメトリクスに着目したプロセスの改善（発表） 欠陥除去率（DRE）を用いた欠陥除去工程の能力評価 進捗の測定 おわりに

回数	日程
1	5月14日(月)～15日(火)
2	10月16日(火)～17日(水)

会場 日科技連・千駄ヶ谷本部ビル  
講師 野中 誠(東洋大学 経営学部 経営学科 准教授)  
鷲崎弘宜(早稲田大学 情報理工学科 准教授)  
瀬谷 茂(株エッセン)  
参加費 53,550円(一般) / 48,300円(会員)

～ソフトウェア品質技術を確実に身につけたい方におすすめ！～

(略称)  
SQiPEC

# 実践!ソフトウェア品質向上のための 技術者セミナー

ソフトウェア品質の確保・向上に欠かせない品質技術を学ぶ、ソフトウェア技術者を対象とした演習中心のセミナーです。もちろん、品質保証に携わる方にもご参加いただけます。

ソフトウェアの品質確保と改善のために必要な以下の3つのスキルを参加型で習得します。

- ①要求分析から設計にいたる品質作り込みフェーズにおいて、本質的な考え方を理解した上で、適切な開発技術や手法を使う。
- ②レビューやテストなどの品質確認・保証フェーズにおいて、効果的かつ効率的な手法を実践する。
- ③ソフトウェアのQCD（品質、コスト、納期）をコントロールするためのマネジメント技術を理解し、個人やチームの開発作業に適用する。

本セミナーでは、この三つのポイントを中心に、演習やディスカッションを交えながら体系的かつ実践的に学ぶことができます。

## コースの特色

- ソフトウェア開発技術と品質マネジメント技術の代表的手法を、体系的に、例題を通して学ぶことができます。
- 基本的な考え方、手法の本質的意義、技術者に求められるマインドなど、ソフトウェア品質の“哲学”を重視します。
- グループ演習の際には、ほかの受講者とのコミュニケーションによる「新たな気づき」も得られます。
- 企業内外で広く知られている実績・経験豊富な講師陣が、それぞれの思いを込めて、熱心に指導します。
- 「オブジェクト指向設計」に不慣れな方を対象に「補講」を開く予定です。設計の基礎知識を、より詳しく習得できます。

## こんな方におすすめします

- あらゆる分野でのソフトウェアの開発・生産に従事している技術者、プロジェクトリーダー、SEの方々、ソフトウェア設計・開発をひととおり経験し、今後、さらに高いレベルを目指す方

## 参加者の声

- 不具合を上流工程でつぶすことがコスト削減のための近道だということを学んだ。
- 品質保証の担当でも、補講というフォローがあり設計開発について大変理解しやすかった。

## カリキュラム

6日間

	時間	科目	主要内容
前期	1日目	ソフトウェアの品質保証の基本	ソフトウェアの品質と品質保証、ソフトウェア開発プロセス、ソフトウェア品質保証活動の実践、プロジェクト管理の考え方・原則・手順、実践的なプロジェクト管理のポイント
	2日目	レビュー技法	レビュー技法の概要、インスペクション技法の概要、レビューでの指摘項目、レビューのマネジメント・定量的な分析手法
	3日目	ソフトウェア要求	要求プロセスのポイント、要求と品質との関わり、要求の抽出・獲得、要求分析、要求の仕様化、要求の妥当性確認、セキュリティに関する要求
後期	1日目	品質を追求した設計	設計の基本、設計の原則（オブジェクト指向設計）、モデルレビュー手法、テスト駆動開発
	2日目	品質向上のためのソフトウェアテスト	テストの役割と全体像、テスト技術、テスト計画、テスト結果分析・報告
	3日目	開発プロセスの改善	問題意識、プロセス改善活動の進め方、計測と分析

回数	開催日
1	前期 6月12日(火)～14日(木)
	後期 7月9日(月)～11日(水)

**会場** 日科技連・東高円寺ビル  
**講師** 板倉 稔 (イネーブルツリー)  
 奈良隆正 (NARAコンサルティング 代表)  
 野中 誠 (東洋大学 経営学部 経営学科 准教授)  
 小井土 亨 (株OSK R&D本部 技術支援部システム技術開発課 スペシャリスト)  
 湯本 剛 (日本ビューレット・パッカード株 シニアコンサルタント)  
 小笠原 秀人 (株東芝 ソフトウェア技術センター)  
**参加費** 126,000円 (一般) / 115,500円 (会員)

～ “顧客価値提供マネジメント” のエッセンスを学ぶ！～

(略称)  
SQiPMC

# 実践! 管理者のためのソフトウェア品質 マネジメントセミナー

品質は経営において2つの意味で重要です。

- ① 経営の目的は製品・サービスを通じた顧客価値提供にあり、品質はその提供価値に対する顧客の評価であること。
- ② 品質のためのマネジメントの思想と方法論は、一般的な目的達成のために広く通用する優れた方法論であること。

本セミナーでは、短期間で管理者として必要なソフトウェアの品質マネジメントの基本的考え方や、プロジェクトマネジメントの進め方について学ぶことができます。

## コースの特色

- ソフトウェア分野における“顧客価値提供マネジメント”の基本的考え方と方法論を学ぶことができます。
- 管理者として必須の、プロジェクトマネジメントについて、その役割や進め方を理解することができます。
- 管理者が持つべき基本的なマネジメント能力を、問題解決法の考察を通して習得します。

## こんな方におすすめします

- 各分野においてソフトウェア開発に従事している部門の管理者（部課長クラス）およびプロジェクトリーダーの方々

## 参加者の声

- ソフトウェア分野における品質マネジメントの意味、意義、全貌を理解することができた。品質というより、マネジメント一般の非常に質の高い整理された講義を聴くことができた。
- プロジェクトマネジメントの全貌と勘所が分かった。もっと詳しく勉強してみようと思う。とくにWBS、リスク対応は重要であると思った。
- マネジメント力とは、実は問題解決力と言ってよいのではないかと思った。問題解決力があるということは良い計画を作ることができることにほかならないことを実感した。

## カリキュラム

2日間

	時間	科目	主要内容
1日目	9:30~12:30	ソフトウェアの品質マネジメント	ソフトウェア開発の難しさ ソフトウェアへのTQMの適用 TQMに学ぶ品質中心思想 TQMに学ぶソフトウェア開発プロセス管理 TQMに学ぶ全員参加の改善 競争優位のためのソフトウェアTQM
	13:30~17:00	管理者としてのプロジェクトマネジメントの進め方	プロジェクト管理の考え方、原則、手順 実践的なプロジェクト管理のポイント 見積と契約 デザインレビュー ソフトウェアメトリクス リスクマネジメントとコンテンジェンシープラン ソフトウェア要員の教育
2日目	9:00~16:30	管理者としての問題発見力向上 一流の管理者になるために 必須のマネジメント能力	問題の種類 事例研究 問題発見の方法基礎 発生型問題の発見技術 リスク兆候の監査による方法

回数	日程
1	6月18日(月)~19日(火)

会場 日科技連・東高円寺ビル  
講師 飯塚悦功 (東京大学 工学系研究科 科学システム工学専攻  
医療社会システム工学寄付講座 特任教授)  
奈良隆正 (NARAコンサルティング 代表)  
金子龍三 (株)プロセスネットワーク 代表取締役社長)  
参加費 53,550円 (一般) / 48,300円 (会員)

(略称)  
SQiPPM

# 実践！プロジェクト マネジメントセミナー

プロジェクトのマネジメントは具体的にどうすればいいのだろうかとお悩みの方、プロジェクトマネジメントをこれからおこなう方、プロジェクトリーダーを体験したがうまくできなかったという方へ、是非おすすめいたします。プロジェクトを成功させたいリーダー必見です！

また、希望者は3日目にソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメントについて事例を中心に学ぶことができます。

## コースの特色

- 実例を中心に、より実践的にプロジェクトマネジメントを学ぶことができます。
- プロジェクト計画の策定、実施についてのノウハウを実務レベルで学ぶことができます。
- ソフトウェア開発のプロジェクトマネジメントについても事例を交えながら学ぶことができます（希望者のみ）。

## こんな方におすすめします

- プロジェクトリーダーまたはプロジェクトリーダーをめざす方、プロジェクトリーダーの立場でお困りの方

## 参加者の声

- 各講師の体験談に基づいた講義だったので分かりやすかった。
- PMの重要性について理解を深めることができた。
- PMリーダーになって行き詰まっていたので、道が開けたように感じた。

## カリキュラム

3日間

	時間	科目
1日目	9:20～12:00	オリエンテーション 国際動向について 現実のプロジェクトマネジメントー失敗事例を中心とした課題の提起ー
	13:00～15:00	プロジェクト計画の策定
	15:15～17:15	実践的管理の方法
2日目	9:30～11:30	プロジェクトのヒューマンファクタ プロジェクトリーダーの育成 コミュニケーションマネジメント
	12:30～13:45	CCPM入門（クリティカルチェーンプロジェクトマネジメント管理）
	13:45～14:15	本セミナーのまとめ
	14:30～17:00	演習の回答と総合質疑
3日目	9:30～11:30	プロジェクトマネジメント事例（1）
	12:30～14:00	プロジェクトマネジメント事例（2）
	14:10～16:40	ソフトウェア開発のプロジェクトマネジメント講義&演習（まとめ含む）

※3日目は希望者のみの参加となります。

回数	開催日
1	5月22日(火)～24日(木)

**会場** 日科技連・東高円寺ビル  
**講師** 香村 求（システムSWAT 代表取締役）  
 金子龍三（㈱プロセスネットワーク 代表取締役社長）  
 岡村孝彦（㈱NTTデータ 第一公共システム事業本部 企画部 プロジェクト推進担当）  
**参加費** 〔3日間〕68,250円（一般）／63,000円（会員）  
 〔2日間〕47,250円（一般）／42,000円（会員）

～問題解決には定石があり、コツがあります！～

(略称)  
SQiP原因

# 実践!ソフトウェア品質向上のための 原因分析セミナー

同じミス、バグ、トラブルが発生していませんか?そうして発生した問題解決には定石があり、コツがあります。

本セミナーでは、問題の発生・流出・拡大の原因を、技術・マネジメント・ひと・組織文化の不備に求め、「問題はなぜ起こるか」という基本論点に立ち返り、真の原因追究のために、「七つの手順 ((1)問題発見のための分析、(2)関係分析、(3)存在意義分析、(4)構造分析、(5)(技術的)能力分析、(6)経営管理分析、(7)文化風土分析)」を用いてTQMのフレームワークで、実践面から論理的に参加者の実際の品質問題について分析を行い、真の原因を追究する「原因分析技法」の習得をめざし、有効な未然防止を得る方法について考察します。こうして、1件の些細な事件から多大な知見を獲得して成長する賢い組織に生まれ変わることができるのです。

## コースの特色

- 問題の状況把握、因果構造解明、対策検討について、その定石とコツを理論・実践の両面から習得します。
- 参加者の事例を素材にして、二人の講師が掛け合い漫才風に、問題の実相を探り、問題発生メカニズムを解きほぐしていく様子を見ながら、コツを会得することができます。

## こんな方におすすめします

- 各分野におけるソフトウェア開発、システム開発の実務者、管理者レベルの方。

## 参加者の声

- 問題解決・原因分析の全体像、そして分析の勘所が分かり、大変参考になった。これで再発トラブルを減少できるかもしれないと希望が持てた。
- 問題の構造に関する仮説・モデルを持つことの重要性が分かった。今後、こうした知識を個人としても組織としても蓄積していこうと思った。
- 先生方の漫才が面白かった。ユーモア溢れるやりとりで、この本質をえぐる鋭さがあって感心した。見ているうちに、自分ならこうすると考える自分に気づき、わずか2日でずいぶん成長したと実感した。

## カリキュラム

2日間

	時間	科目
1日目	9:30~12:00	問題解決・原因分析のコツ
	13:00~17:00	原因分析の基本技術 原因分析の手順 トラブルシューティング
2日目	9:00~12:00	事例・ケーススタディ 問題の構造の仮説モデル
	13:00~16:30	実例研究・質疑応答
	16:30~17:00	セミナー終了後のフォローアップ

回数	開催日
1	6月29日(金)~30日(土)
2	10月19日(金)~20日(土)

会場 日科技連・本部ビル  
講師 飯塚悦功(東京大学 工学系研究科 化学システム工学専攻  
医療社会システム工学寄付講座 特任教授)  
金子龍三(株)プロセスネットワーク 代表取締役社長)  
参加費 47,250円(一般) / 42,000円(会員)

～メトリクスを活用したソフトウェア品質保証の実践や指導、品質システム構築、改善の推進が可能となります！～

(略称)  
SQiPメトリクス  
中級

# 実践!ソフトウェア品質保証のためのメトリクス活用セミナー

近年、ソフトウェアの利用分野がますます広がり、その品質の社会に対する影響度が增大する中で、ソフトウェアの品質保証を的確に実施し、品質を確保していくためには、適切なメトリクスの設定とそれに基づく品質データの収集と分析が非常に重要になっています。

本セミナーでは、開発の各フェーズにおける実践的なメトリクスの活用について、事例を交えて紹介するとともに演習により、理解の深耕、定着化を図りますので、現場ですぐに実践することができます。メトリクスを活用した品質保証の推進を検討している開発技術者、品質管理技術者及び定量的な品質システム構築を目指すプロセス改善推進担当者におすすめします。

## コースの特色

- 計画立案から設計・製造・テスト・出荷と、ソフトウェア開発プロジェクトの進行に従った、メトリクスの活用方法（開発計画立案時のデータ活用法、設計段階において最良の設計案を選択する方法、上流工程のレビュー結果に基づく品質把握とテスト工程残存バグ数の予測、適切なテスト実施状況の監視方法、出荷可否判断の方法、弱点モジュールや問題プロセスの見つけ方）を学ぶことができます。
- 習得したメトリクスは、演習により、理解の深耕、定着化を図りますので、現場の中ですぐ実践することができます。
- メトリクスを活用したソフトウェア品質システムの事例を紹介いたしますので、自社のシステム構築、改善に役立ちます。

## こんな方におすすめします

- ソフトウェア開発の中核として活動する、開発技術者、品質管理技術者およびプロセス改善推進担当者

## 参加者の声

- メトリクス活用の重要性は理解していたが、活用方法や他社での事例等の説明があり良かった。
- 統計的手法を取り入れた品質分析の方法を習得することができた。
- 実際の現場の例が多く盛り込まれていたため、イメージが湧き、わかりやすかった。

## カリキュラム

2日間

	時間	科目	主要内容
1日目	9:30～12:30	ソフトウェア品質保証におけるメトリクスの活用	メトリクス活用の必要性 メトリクス活用の場面とは?
		メトリクス活用の前に知っておくべきことは	データの種類と特徴 データ収集の対象 データ収集における考慮点 データ分析の基礎
	13:30～17:00	メトリクス活用の実際 (1)	(ケース1) 開発計画立案時 (ケース2) 設計時 (ケース3) テスト工程に入るとき (ケース4) テスト実施時 (ケース5) テスト終了時 (ケース6) 出荷判定
2日目	9:30～12:30	メトリクス活用の実際 (2)	(ケース7) プロジェクト終了後の反省会1 (ケース8) プロジェクト終了後の反省会2 (ケース9) プロジェクト終了後の反省会3 (ケース10) 年度単位のデータ分析による組織的改善
		メトリクスを活用した定量的品質管理の事例	
	13:30～17:00	演習問題	(演習問題1) データ分析の基本 (演習問題2) テスト工程で何件バグを検出すればいいの? (演習問題3) テストは順調に進んでいるのだろうか? (演習問題4) 改善活動の効果は? (演習問題5) 発注会社/担当者の品質レベルはどう評価する? (演習問題6) レビューの効果が上がらないのは何故?

回数	開催日
1	7月23日(月)～24日(火)

会場 日科技連・東高円寺ビル  
講師 真野俊樹 (SQA総合研究所 代表エグゼクティブコンサルタント)  
参加費 53,550円 (一般) / 48,300円 (会員)

(略称)  
SQiP受入テスト

# 効果的な受け入れテストの 設計と実践セミナー

ソフトウェアの開発のパートナー委託比率は高いものがあります。従来の発注・受入れは、開発発注する企業を頂点とする、直系関係会社、そのパートナーという体制で、開発標準、品質基準などを一体化するという体制の下、実施されてきました。しかし最近では、コスト削減要求に合わせた発注先の変化、海外発注の増加が進み、その結果、受け入れにおける製品の評価に関する重要性が高まっています。

発注、受け入れ評価には、手続き知識だけでは太刀打ちできなくなっており、テストと品質評価に関する幅広い技術が必要です。

このような背景から、本セミナーでは、発注したソフトウェア製品の受け入れテストの考え方、方法、実施するための要件を講義と演習を通じて学習し、実践に役立つ力を身につけます。

## コースの特色

- 基礎から学びますので、技法の知識がなくても大丈夫です。
- 演習を中心に技法を学びますので、応用力につながります。
- 発注したソフトウェア製品の受け入れテストの考え方、方法、実施するための要件を体得できます。

## こんな方におすすめします

- Sier、システム部門で外部発注、それに伴う受け入れテストに携わっているグループリーダおよび中堅社員

## カリキュラム

1日

時間	主要内容
9:30～12:30	受け入れテストの概要と問題点 受け入れテストの技法と進め方
13:30～17:00	受け入れテストの観点とテスト設計 テスト結果の評価とまとめ 発注先（パートナー）のテストとレビュー

回数	日程
1	7月 2日(月)

**会場** 日科技連・東高円寺ビル  
**講師** 松尾谷 徹（デバック工学研究所 代表、法政大学 講師）  
堀田 文明（デバッグ工学研究所 技師長）  
**参加費** 26,250円（一般）／21,000円（会員）

(略称)  
SQiPテスト  
開発技術

# テスト技法とテストケース演習 ： 開発技術者向け

プログラムは厳密な論理や、約束事に従って作成されていなければならない、あいまいな世界で生活している社会とは各段に違う正確性を要求される世界です。プログラムにバグが混入するのは避けられない現象と考えねばなりません。

そのバグを摘出するテスト作業では、バグの隠れ方と探し方を合致させることが必要です。そのためには、テスト対象であるプログラムやシステムの特徴を理解し、テストすべき箇所を特定する技術と、様々な技法を選択、駆使して、漏れの無いテストケースを設計する技術が必要です。

テストケース設計技法は漏れの無いテストを実施するための方法ですが、単純な利用はテストケース数を増加させるだけです。

したがって、実際のテストでは、バグが隠れているプログラムやシステムの特徴を理解して、テスト対象（探索空間）を絞り、そこに適用するテスト技法を選択する必要があります。

本セミナーでは、多くの演習を通して開発技術者に必要な、漏れの無い、効率的なテストを行うための実践的技術を習得します。

## コースの特色

- テスト技法の基礎である、同値分割、境界値、デシジョンテーブル、条件分岐テスト、直交表、ALL-Pairなどに加えてCFD（Cause Flow Diagram）、バリエーションマトリックスなどのテスト技法の応用を学ぶことができます。
- 対象となるプログラムの特性、テスト局面や派生開発などの制約条件から、最適な技法を選択し、説明し、実践する力を演習を通して身につけることができます。

## こんな方におすすめします

- ソフトウェア開発技術者、ソフトウェアテスト技術者

## カリキュラム

2日間

	時間	主要内容
1日目	9:30～12:30	テストの全体像 テストを合理化するための基礎理論
	13:30～17:30	テストの基礎技法
2日目	9:30～12:30	仕様ベースのテスト技法 CFDを用いて組合せの爆発を防ぐ
	13:30～17:00	構成ベースのテスト技法 バリエーションマトリックス All-Pair法

回数	日程
1	9月10日(月)～11日(火)

会場 日科技連・東高円寺ビル

講師 松尾谷 徹（デバック工学研究所 代表、法政大学 講師）

参加費 52,500円（一般）／47,250円（会員）

～市場の変化に対して柔軟な対応ができる  
次世代のソフトウェア生産技術リーダーを育成する～

(略称)  
SQiPテストプロ

# モダンソフトウェアテストアカデミー :プロフェッショナルコース

企業環境は変化のうねりの中にあり、それに対応した変革が必要となっています。変革を推進するには、適正な技術基盤を持ったリーダシップがなくてはならず、危機意識と掛け声だけでは形だけの変革になってしまうことは、多くの企業が経験済みです。

しかし、一方でOJTの衰退とともに企業におけるプロフェッショナル育成は弱体化しており、改善をリードする人材が枯渇しているのが現実です。

本セミナーでは講師らが開発し、多くの実績がある演習／事例分析、フィールドスタディを組合せたプログラムを使って、変革を推進できる技術、プロセスマネジメントのプロフェッショナルを育成します。

## コースの特色

- 技法だけでなく、テストの観点、テストケース抽出、テスト実施、品質評価まで幅広い範囲を対象とします。
- 設計レビュー、単体テストからシステムテスト、さらに品質評価や設計プロセスの評価まで対象とします。
- 技法の習得、演習/事例分析、フィールドスタディ（自分の課題分析）を1：1：1の割合で学びます。
- 講師は、知識だけでなく実務経験が豊富で、かつ、現役です。
- 多忙な受講生の業務を阻害しない日程構成とし、少人数でゼミ形式で進めます。

## こんな方におすすめします

- 経験を超えた変化に追従するスキルを目指す意志のある方
- 組織からプロフェッショナル候補として推薦された方
- 社内的高度人材育成や、生産技術の推進者
- 中途入社など、体系的な研修を受講できなかった中堅技術者

## 参加者の声

藤井 彩乃 さま(株インテック 技術部) 自社内の活動に自信が持てるようになりました！

本研修は単にテスト技法を学ぶだけの研修ではありません。テスト業界を走る今のトップガンの”思い”を知りました。また、他社の参加者や講師との議論では、異なる文化を持つ人への説明方法を常に考えさせられました。しかし、言葉は違えどもテストによる品質改善活動という目的は同じです。1年という時間をかけて課題を見直したことによって、それまで迷いながら取り組んでいた自社内の活動（その目的や取組み自体）に、自信が持てるようになりました。

## カリキュラム

8日間

	主要内容
オリエンテーション (東京・千駄ヶ谷)	オリエンテーション／問題分析
第1日目 (熱海)	テスト全体像：テストの観点とテストのアプローチ選択・見積もり・計画／分析モデリング：標準・規範とプロジェクトの実態／モデリングから原因分析へ
第2日目 (東京・水道橋)	テスト技法とテストのモデリング／フィールドスタディ課題分析
第3日目 (熱海)	品質会計に学ぶテスト管理／テスト技法の適用と事例／テストの問題と対策／テストの新技术／HAYST法／フィールドスタディ課題取組みの進め方
第4日目 (東京・水道橋)	単体、結合テストにおけるテスト漏れ分析／フィールドスタディ関係論文サーチ方法
第5日目 (東京・千駄ヶ谷)	計測（メトリクス）／フィールドスタディ課題解決策の評価
発表会 (東京・千駄ヶ谷)	発表会（午後） ※研修生は午前中に発表準備を行います ※発表会には研修生の上司が参加します

回数	月	日程
1	オリエンテーション	10/12(金)
	第1月(合宿)	10/26(金)～27(土)
	第2月	11/ 9(金)
	第3月(合宿)	11/30(金)～12/1(土)
	第4月	12/14(金)
	第5月	1/11(金)
	発表会	2/22(金)

会場 未定（東京近郊）  
講師 松尾谷徹（デバック工学研究所 代表、法政大学 講師）  
西 康晴（電気通信大学 電気通信学部 システム工学科 講師）  
堀田文明（デバック工学研究所 技術長）  
秋山浩一（富士ゼロックス(株)）  
参加費 577,500円（一般）／525,000円（会員）

～直交表を活用した網羅率100%テストの設計～

(略称)  
ST

# 2日でマスターする ソフトウェアテスト

組み込みソフトを持つ製品において、ソフトウェアやシステム開発時における品質の重要性が非常に高くなってきており、テストや試験の抜け落ちが製品の重大な品質事故につながるケースが発生しています。しかしながら、ソフトウェア開発時において、網羅性の高いテストを行うには無限の組み合わせが必要で、それを満たすにはシステムテストの知識だけでは難しいのが現状です。

本セミナーは、直交表を活用することで、効果的、効率的にテスト設計を行い、最小限で網羅性の高い組み合わせテストを設計する方法を学ぶことができます。また、理論を最小限にし、演習やテストシミュレーションを通じて試験方法を学ぶため、すぐに実務に役立ちます。初めて学ぶ方から実践力をつけたい方まで幅広い方々に最適なセミナーです。

## コースの特色

- 直交表を活用した効果的なテスト設計をやさしく学びます。
- 組み込みソフトを持つ製品を対象とした確実な試験方法を習得することができます。
- 演習やテストシミュレーションにより、すぐに実務に役立つ内容です。
- 開発時のバグ取り試験の抜け落ちによるクレーム発生の防止に最適なコースです。

## こんな方におすすめします

- システムテストの計画者
- 組み込みソフトを持つ製品の開発者

## 参加者の声

- 今回の講習は、とてもためになったと思います。まずは持ち帰ってトライします。
- 直交表が装置状態や操作に適用でき、何にでも柔軟に適用できることがわかりました。大変有益な研修でした。
- これまで直交表のことは知っていましたが、使い方がほとんどわかりませんでしたので、その有効性がわかり、受講して良かったと思います。

## カリキュラム

2日間

	時間	主要内容
1日目	9:30～17:30	何のためにシステム試験をおこなうか（試験抜け落ちによる損失発生と信用の失墜） システム試験の概要（システムの種類、試験の性質） 試験によるバグの発生形態（システム試験による故障モード） 網羅試験の作成方法 直交表を用いた試験計画（直交表の性質、パラメータの種類、割付方法） 直交表を用いた試験計画作成演習①（パラメータ15個程度の演習＋発表） 1日目の質問とまとめ
2日目	9:00～17:00	直交表の種類と多水準因子の作成（禁則条件、多水準、組み合わせ法） 直交表を用いた試験計画作成演習②（禁則条件、多水準、組み合わせ法＋発表） 試験結果の解析（バグの種類と解析） 試験結果の解析演習（part-cont法、ワイブル解析他） 実務への適用時の注意点 因子の決定時のポイント まとめ（2日間のまとめとアドバイス）

回数	開催日
1	6月21日(木)～22日(金)

会場 大阪・中央電気倶楽部  
講師 花田憲三（花田技術士事務所（技術士、博士））  
浜田佐敏（元日立製作所（技術士））  
参加費 56,700円（一般）／51,450円（会員）  
※割り付けソフト付

(略称)  
SQiPテスト  
応用

# ソフトウェアテスト技法 ドリルセミナー

ソフトウェアテスト技法は、開発フェーズや目的などに合わせて、適切な技法を適用していくことが重要です。

ソフトウェアのバグ発生には、物理法則のような普遍性はありません。

そのため、テスト技術者には、テスト設計に関わる知識のみならず、経験や勘も同時に求められます。

そこで、経験の少ないテスト技術者向けに、テスト設計および実施のノウハウを徹底的に修得いただくことをねらいに本コースを開設しました。

## コースの特色

- ソフトウェアテスト技法の正しい使い方を学べます。
- 一人一台パソコンを使用し、演習中心に実践的に学べます。
- 書籍『ソフトウェアテスト技法ドリル』（日科技連出版社）をテキストとします。
- テストの初心者が、「中級者」になることができます。

## こんな方におすすめします

- 実務経験2年以上のテスト技術者
- テスト技法を実務に適用しようとしている方

## カリキュラム

2日間

	時間	科目
1日目	9:30～12:30	第1章：点に注意を向ける (1)ピンポイントテスト (2)過去の経験を活かす 第2章：線を意識する (1)同値分割と境界値分析の基本 (2)同値分割と境界値分析の基本 (3)ループ境界 (4)負荷テスト
	13:30～18:00	第3章：面で逃がさない (1)ドメイン分析テスト (2)デシジョンテーブルテスト (3)原因結果グラフ (4)CFD法
2日目	9:30～12:30	第4章：立体で捉える (1)HAYST法 (2)ペアワイズ
	13:30～17:00	第5章：時間を網羅する (1)状態遷移テスト (2)並列処理テスト 第6章：多次元の品質 (1)人間に対するテストとソフトウェアテスト (2)ソフトウェアテストとは何か (3)シナリオテスト (4)受け入れテスト (5)品質保証のテスト

回数	日程
1	6月 6日(水)～ 7日(木)
2	10月29日(月)～30日(火)

会場 日科技連・東高円寺ビル  
講師 秋山浩一（富士ゼロックス株）  
参加費 57,750円（一般）／52,500円（会員）

(略称)  
SQiPテスト  
実践

# 実践！直交表、All-pair法を用いた 組合せテストと状態遷移テスト修得セミナー

ソフトウェアの大規模・複雑化によって検証すべきテストパターンは爆発的に増大しています。しかし、現実的にはすべてを網羅したテストは実行不可能といわれている中で、“いかに少ないテストで、その網羅性を高め、品質と生産性を向上させるか？”が求められています。

本コースは、この要求に応えるべく開設しました。

テスト技法を実務に適用して効果を上げたい方々の参加をお待ちしています。

## コースの特色

- テスト項目の爆発的増大を防ぐ組合せテスト方法を習得できます。
- テスト設計の前にすべきことがわかります。
- テストの全体像の把握する方法がわかります。
- テストの全体最適化の方法がわかります。

## こんな方におすすめします

- テストの責任者
- テスト技術マネージャー
- テストリーダー

## カリキュラム

1日

時間	科目
9:30～12:30	1. テスト要求分析 ・ FV表 (Function Verification Table)
13:30～17:30	2. テスト設計 ・ ラルフチャート 3. テスト詳細設計 ・ FL表 ・ 禁則の回避方法

回数	日程
1	7月13日(金)
2	11月20日(火)

会場 日科技連・東高円寺ビル

講師 秋山浩一 (富士ゼロックス(株))

参加費 36,750円 (一般) / 31,500円 (会員)

※HAYST法の中で、テスト要求分析のために使われる「FV表」、テスト設計のための「ラルフチャート」を中心に解説します。

[NEW!]

(略称)  
XDDP入門

# ソフトウェア品質部門のための XDDP入門コース

「XDDP (eXtreme Derivative Development Process)」は、派生開発に特化した開発アプローチで、「短納期」や「部分理解」といった派生開発特有の問題に合理的に対応する方法を提供しています。「XDDP」は、派生開発の諸問題を解決しかつ再生可能な効果的開発アプローチの一つと位置づけられており、的確に活用していけば、従来比で3～5割の生産性の向上が期待できます。言い換えれば、ソフトウェアの開発プロセスは、それだけ工夫の余地が残されているということです。もちろん「派生開発=XDDP」というわけではありません。派生開発は多様な世界であり、あくまでも「XDDPは派生開発における一つの効果的アプローチ」という位置づけです。

従来、XDDPは設計・開発部門を中心に進めてきましたが、XDDPの効果が表面化するにつれて、今後の派生開発に対して市場はさらなるQCDの向上を求めてくることは容易に想像でき、その状況に対応するには開発部門と品質保証部門の効果的な連携が必要になってきます。しかしながら、XDDPは多くの組織が保有している「標準プロセス」とは異なった形をしているために、品質保証部門の方の理解が得られないケースも生じています。

そこで、このXDDPを品質関係部門の方々に基本から知っていただくために設けられたのが本コースです。多くの方々のご参加をお待ちしています。

## コースの特色

- XDDPの考え方、特長とポイントが1日で理解できます。
- 品質と生産性を同時達成に対するプロセスの重要性と「プロセスを設計(デザイン)する」必要性が理解できます。
- 本コース受講後、「XDDPの導入、活用による開発プロセスの改善セミナー」の受講をおすすめします。

## こんな方におすすめします

- XDDPの考え方、特長を理解したい品質関係部門の方
- XDDPを自社に導入することを検討している企業・組織の品質関係部門の方
- 再度XDDPを基本から学びたい品質関係部門の方

## カリキュラム

1日

時間	主要内容
9:30～12:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 派生開発の現状と問題 多様な要求／派生開発の重要性／派生開発での混乱の原因について</li> <li>・ XDDPの基本的考え方 派生開発アプローチ／追加機能要求仕様書／変更3点セット</li> <li>・ XDDPの効果</li> </ul>
13:30～17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入障壁の実態 標準プロセスって何？／プロセスの「固定」と「安定」の混同／「変化」を「安定」させる仕組みがない</li> <li>・ XDDPを利用したプロセスの改善の意味 自在なプロセス設計の必要性／プロセスの実現性の評価／XDDPから始める多様な要求への対応</li> <li>・ XDDPから新しい展開へ</li> </ul>

回数	日程
1	5月28日(月)
2	10月24日(水)

会場 日科技連・東高円寺ビル

講師 清水吉男(株)システムクリエイツ 代表取締役

参加費 36,750円(一般)／31,500円(会員)

～派生開発を制覇しなければ、明日はない！～

[NEW!]

(略称)

XDDP実践

# XDDPの導入、活用による開発プロセスの改善セミナー -XDDPを活用した品質と生産性の劇的改善のノウハウ-

今日、組み込み系システムだけでなく、パッケージソフトや制御系ソフト、エンタプライズ系においても、いわゆる派生開発によるシステム開発が頻繁に行われるようになりました。しかしながら、派生開発によって開発されたソフトウェアから多くのトラブルが発生しています。

派生開発の問題は、派生開発の要求そのものが多様であるのに対して、多くの現場で行われている開発プロセスが、派生開発の要求にマッチしないために起きています。その状況の中で多くのバグに見舞われ、繰り返される手戻り作業がソフトウェア技術者の疲弊を招いています。

組織によっては90%以上がこのような派生開発という現実があり、この混乱が改善されない状況では混乱が解消しないことでプロセス改善活動も形骸化します。それでも常に変化する市場の要求に応じていくためには、プロセスを改善し続けなければならないというジレンマの中に置かれています。

このような派生開発の場面において効果的なプロセスを提供するのが「XDDP (eXtreme Derivative Development Process)」という派生開発専用の開発アプローチです。この開発アプローチは「USDM (Universal Specification Describing Manner)」という要求の仕様化の方法と「PFD (Process Flow Diagram)」という要求にマッチするプロセスを自在に設計する方法の支援を受ける形で構成され、多様な要求に対応することができます。実際、これまで多くの現場においてその効果は確認されています。

本講座では、品質関係部門の方々に、このXDDPを導入し、プロセス改善活動と組み合わせることで劇的な成果につなげる方法を、XDDP生みの親である清水吉男先生から伝授いたします。

## コースの特色

- XDDP生みの親である清水吉男先生から直接指導を受けることができます。
- XDDPを活用して、開発プロセスを変化させることができます。
- XDDPの導入障壁となっている“組織標準プロセス”を見直すきっかけとすることができます。
- 一人一台パソコンを使用し、演習をまじえて実践的に学べます。

## こんな方におすすめします

- XDDPを導入している企業・組織の方
  - XDDPの導入を検討している企業・組織の方
  - プロジェクトにおいてプロセスの保証を担当している方
- \* 大きな効果を産み出すために、一社から品質部門と設計部門の両担当者の参加をおすすめします。

## カリキュラム

2日間

	時間	主要内容
1日目	9:30~12:30	・ 混乱する派生開発 派生開発の特徴とプロセスの実態 ・ プロセス改善の意味と現状 ・ 派生開発におけるプロセス改善の意義 組織標準のあり方/派生開発のプロセス改善の効果
	13:30~17:00	・ XDDPの復習 標準的派生開発アプローチ/追加機能要求仕様/変更要求仕様を含む3点セット ・ USDMの効果を実感してみよう
2日目	9:30~12:30	・ 派生開発におけるプロセスの保証 ・ PFDを読む/プロセスの定義から設計へ ・ 変化を安定させる意味
	13:30~17:00	・ PFDによるプロセスの評価ポイント PFDで何が分かるのか? ・ XDDPプロセスを設計してみよう PFDを使ってXDDPによるプロセスを設計する

回数	日程
1	6月20日(水)~21日(木)
2	11月27日(火)~28日(水)

会場 日科技連・東高円寺ビル

講師 清水吉男 (株)システムクリエイツ 代表取締役

参加費 57,750円 (一般) / 52,500円 (会員)

## 第28回

# ソフトウェア品質管理研究会 〈SQIP研究会〉

ソフトウェア開発に関連した教育と事例研究を行うことを目的として、毎年5月から2月の1年サイクルで開催しています。「ソフトウェア開発の現場を活性化させたい」、「ソフトウェアの品質がなかなか安定しない」などの問題点について、第一線で活躍中の指導講師が提案・助言した解決の糸口を互いに議論することで、問題を発見し、新たな視点を獲得、品質技術を適用する実践を通じて、問題解決のスキルをマスターすることができます。また、「ソフトウェア品質シンポジウム2012」(2日間)に無料で参加することができます。

午前 10:00~12:00	<b>〈特別講義〉</b> ソフトウェア品質に関する関心度や重要度が高いテーマのそれぞれの専門会による講義
午後 13:00~18:00	<b>〈分科会〉</b> ソフトウェア品質に関する以下の9つのテーマに分かれ、指導講師とともに、議論・学習を行います。 第1分科会「ソフトウェアプロセス評価・改善」 第2分科会「プロジェクトマネジメント」 第3分科会「ソフトウェアレビュー」 第4分科会「ユーザエクスペリエンス(UX)」 第5分科会「ソフトウェアテスト」 第6分科会「派生開発」 演習コースI「ソフトウェア工学演習コース」 演習コースII「形式手法と仕様記述」 特別コース「ソフトウェア品質保証の基礎」

■活動期間：2012年5月～2013年2月(例会全9回)

■会場：日科技連：東高円寺ビル

■参加費：159,000円(一般) / 149,100円(会員)

※研究会の詳細は、「専用パンフレット」をご請求ください。

## 第31回

# ソフトウェア品質シンポジウム2012 〈SQIPS2012〉

本シンポジウムは、ソフトウェア品質に関わる全ての方々が一堂に会し、現場で役立つ実践的な技術や経験、ノウハウ、研究成果を発表し意見交換を行う場です。開発者、マネージャ、ユーザ企業、QA担当者、研究者といった様々な立場、組込み系やエンタープライズ系といった様々なドメインの方々がオープンな立場で品質向上のために真摯に議論し、相互研鑽や人的交流を行うことを目的としています。

### 2012年度開催概要

■期間：2012年9月5日(水)～7日(金)(予定)

■会場：東洋大学・白山キャンパス(予定)

■プログラム概要：基調講演、特別講演、経験論文発表、経験事例発表、チュートリアルセッション、パネルディスカッション、SIGなど

— 一般 39,900円  
(早期申込み期間 39,900円→37,800円)

### 参加費

日科技連賛助会員 37,800円  
(後援・協賛学会会員)  
(早期申込み期間 37,800円→35,700円)

最新情報はこちらから!  
<http://www.juse-sqip.jp/>

# JSTQBテスト技術者資格認定制度

主催：JSTQB

試験実施：(財)日本科学技術連盟

※ (財)日本科学技術連盟は、主催団体であるJSTQBとパートナーシップを結んでおり、試験の実施組織となっています。

## JSTQB (Japan Software Testing Qualifications Board) とは

- ・日本におけるソフトウェアテスト技術者資格認定の運営組織で、各国のテスト技術者認定組織が参加しているISTQB (International Software Testing Qualifications Board) の加盟組織として2005年4月に認定されています。
- ・ISTQBの加盟組織の各国団体は資格および教育・訓練組織認証について相互認証を行っています。
- ・JSTQBが運営するソフトウェアテスト技術者資格は海外でも有効な資格となっています。

自動車、携帯電話、社会インフラ、企業システムなど、我々の身の回りは、ソフトウェアで占められています。すなわち、我々の身体や財産の安全はソフトウェアに委ねられているのです。しかし昨今の状況を鑑みると、ソフトウェアの品質や信頼性、安全性が十分に確保されているとは言えません。ソフトウェアの品質や信頼性、安全性の確保は急務なのです。

そのための重要な技術として、ソフトウェアテストがあります。システムトラブルの報道でしばしば目にする「テスト不足」というキーワードは、テストの工数の不足を示唆しているだけではありません。業界全体で、テストの技術力が低迷していることを意味しているのです。我々の身体や財産を守るために、ソフトウェア技術者全員が、テスト技術を向上させなくてはなりません。

業界全体で技術力を向上する手段の一つに、資格認定制度があります。JSTQBでは、日本のソフトウェア技術者がテスト技術を向上させるきっかけとして、テスト技術者の資格認定制度を開始いたしました。

我々の身体や財産を守るために、また日本のソフトウェア業界の技術力向上のために、ぜひ多くのソフトウェア技術者にJSTQBテスト技術者資格を取得していただきたいと考えております。

皆様のチャレンジをお待ちしております。

- JSTQBテスト技術者資格認定制度は、Foundation Level、Advanced Levelの2段階により構成されています。

### Foundation Level試験実施要領

- ◆実施日◆ 年に2回（夏と冬）の予定（予定）
- ◆試験時間◆ 60分
- ◆開催地域◆ 東京、大阪他（予定）
- ◆試験料◆ 21,000円
- ◆出題範囲◆ シラバスに準じます。

### Advanced Level試験実施要領

- ◆実施日◆ 年に1回の予定（予定）
- ◆試験時間◆ 180分
- ◆開催地域◆ 東京、大阪他（予定）
- ◆試験料◆ 21,000円
- ◆出題範囲◆ シラバスに準じます。

試験のご案内は、日科技連のWebサイト (<http://www.juse.or.jp/software/40/>) でご確認ください。  
シラバスは、JSTQBのWebサイト (<http://jstqb.jp/syllabus.html>) でご確認ください。



# ソフトウェア 品質技術者資格認定制度

## あなたのソフトウェア品質力を認定します！

2008年12月に新設されたソフトウェア品質技術者資格制度（JUSE Certified Software Quality Engineer）は、「すべてのソフトウェア技術者に品質技術を！」をコンセプトに初級、中級、上級の3段階の資格で構成しています。初級資格試験は2011年12月末現在、累計で約2,000名の方が受験し、累計合格者数は700名近くに達しています。また2010年度で2回目となった中級資格試験は、累計で200名の方が受験し、25名の方が合格されています。

初級は毎年2回、中級は毎年1回に定期的実施しており、ソフトウェア品質技術の効果的な修得を目指しています。上級の試験については順次新設していくべく、検討を進めています。

試験対象者は、品質保証エンジニアはもちろん、開発者や技術者、プロジェクトリーダーやマネージャ、保守技術者、教育担当者そして経営者といったすべての方々です。

### 「初級ソフトウェア品質技術者」資格試験

- ◆実施日◆ 第8回 5月26日（土）10:30～11:30（60分）  
（予定） 第9回 12月1日（土）10:30～11:30（60分） 〈年2回開催〉
- ◆開催地域◆ 東京、大阪を中心に各主要都市にて開催
- ◆試験料◆ 10,500円
- ◆出題形式◆
  - ・複数の選択肢から正解を選ぶタイプの問題で、40問出題されます。
  - ・合格ラインは70%前後（難易度により多少変動します）。
  - ・試験時間は60分です。
  - ・出題範囲はシラバス（Ver.1.1）に準拠しています。
  - ・シラバス内には、学習目標/知識のレベルを設けております。

### 中級ソフトウェア品質技術者 資格試験

- ◆実施日◆ 第3回 12月1日（土）13:30～15:30（120分） 〈年1回開催〉  
（予定）
- ◆開催地域◆ 東京、大阪を中心に各主要都市にて開催
- ◆試験料◆ 15,750円
- ◆出題形式◆
  - ・選択式25問、記述式3種類の問題形式（下記）よりあわせて15～20問程度。
  - ・試験時間は120分（休憩なし）です。
  - ・合格ラインは70%前後（選択式、記述式ともに）。
  - ・出題範囲は中級シラバス（Ver.1.0）に準拠しています。  
ただし、選択式はレベル2～3で出題されます。
  - ・シラバス内には、学習目標/知識のレベルを設けております。

問題の種類	問題の説明	出題数（予定）
選択式	複数の選択肢から正解を選ぶ	25問
記述式	（穴埋め） 文章中の用語の穴埋め	10問
	（説明） 用語についての定義や活用方法の説明	5問
	（解説） あるテーマについてその理由や留意点などの考察を記述	2問

詳細・最新情報についてはWebサイトよりご確認ください。>>><http://www.juse.or.jp/software/35/>

# ソフトウェア品質保証 部長の会

## 各社のソフトウェア品質保証部長が熱い討論を展開中！

近年、ソフトウェアに起因する品質事故が頻発しており、ソフトウェア品質保証部門の担う役割はどんどん大きくなってきています。それに伴い、同部門の行うべき活動は多岐にわたっていますが、様々な状況のプロジェクトに対する最適な品質保証活動や、組織全体の中長期的な品質保証戦略はどうあるべきか、についてソフトウェア品質保証部門の長は日々悩みを抱えているのが実状です。

そこでSQiPでは、2010年からソフトウェア品質保証部門の長による「品質保証部長の会」を創設し、講演やグループ討論を通して、品質保証戦略の立案や組織体制の構築、品質保証業務の改善、効果的な品質保証活動の事例の作成、開発現場への普及推進などについて議論しています。また、議論の成果はSQiPシンポジウムにて発表しています。



詳細はこちら>>><http://www.juse.or.jp/software/91/>

▲第3期キックオフ会議の様子

# ソフトウェア品質保証 責任者の会（大阪）

## ～組織視点で考えるソフトウェア品質保証～

「ソフトウェアの品質保証活動の全体像を明らかにし、ソフトウェア品質保証戦略の立案や管理の手法を確立し、具体的に適用する際の助けとなる事例を蓄積する。」ことを目的に2011年から活動を開始しました。

### — 特 徴 —

- ◆ すでに成果を上げている「ソフトウェア品質保証部長の会」は東京開催のため、関西からの参加者の移動の負担を軽減するため大阪で実施します。
- ◆ 会の名称にある“部長を“責任者”とし、門戸を広く募集します（部長・課長・リーダーなど職制呼称は各社異なるため）。

### — 参加者のメリット —

- ◆ 品質保証活動に関する部門長レベルの技術交流や情報交換ができます。
- ◆ 社外のネットワーク作りができます。
- ◆ 豪華な講師陣による講演も予定されています。

～手軽な参加費で基本を学ぼう！～

# SQiPワークショップ

—旧ミニセミナー—

## ◆「SQiPワークショップ」とは

SQiPではこれまでに「ミニセミナー」を実施していましたが、これを発展した新規企画として「SQiPワークショップ」を実施しています。

SQiPワークショップでは、「入門的」なソフトウェア品質技術を紹介しています。講師と参加者でざくばらんに意見交換し、そして、参加者の皆さんに職場に戻ってから「実践」してもらうことに重点を置いたセミナーです。

全体で約3～5時間の短時間セミナーですが、事例紹介や、意見交換を1時間設けるなど、実践的で参加型のセミナーです。さらに、参加後、メールでの議論ができるよう参加者のメーリングリスト（ML）を作成いたします。

おもに入門クラスの方を対象としています。初級クラス以上の方もお気軽にご参加ください。

参加人数 10名～30名。参加資格は問いません。

参加費 8,400円（税込）

### ワークショップ 3つの特徴

1	2	3
講師・参加者とざくばらんに意見交換ができる!	半日なので参加しやすい! 参加費もお手ごろ!	フォローアップにより理解を深めることができる!

#### 実施テーマ（予定）

なぜなぜ分析入門

プロセスQA入門

ソフトウェアテスト入門

ソフトウェアレビュー入門

メトリクス入門

詳細はWebで公開中!!

今すぐアクセス!

<http://www.juse.or.jp/>  
ソフトウェア品質 > ワークショップ

# SQiPメールニュース

<http://www.juse.or.jp/software/mailnews.html>

メールニュースでは、セミナー、研究会、シンポジウム、技術交流会等のソフトウェア品質に関する各種イベント情報などをお知らせいたします。また、仕事や研究でソフトウェア、情報サービスの質を考える上で重要と思われる各種情報も提供してまいります。ご希望の方は上記Webから申込みください（無料）。

- ソフトウェア品質の最新動向
  - セミナー・シンポジウム情報
  - 他社の動向
  - コミュニティ情報
- など有益情報が満載!

最新情報が  
満載です!

SQiPだより～ソフトウェアの品質って?～第225号 [2011\_7\_5]  
(財) 日本科学技術連盟  
<http://www.juse.or.jp/>

---

★ ソフトウェア品質シンポジウム2011 (SQiP2011) ★  
<http://www.juse.or.jp/software/327/?mail1175sqip>  
～連載で聴きどころをご紹介します～

◆今回の聴きどころ◆  
基調講演、併設チュートリアルPart1: XDDP、アジャイル開発編

ソフトウェア品質における日本最大級のイベント「SQiPシンポジウム2011」の参加申し込みがスタートしました。本メールニュースでは、連載でこの注目すべきシンポジウムの内容をご紹介します。  
★『2011年7月22日(金)』まで早期割引実施中!!

---

— 今号の目次 —

【1】基調講演のご紹介

【2】併設チュートリアルのご紹介 Part1

- XDDP-派生開発の品質と生産性の達成へ
- アジリティある開発における品質の役割と位置づけ

# ソフトウェア品質知識体系 (SQuBOK®) ガイド

SQuBOK®とは、ソフトウェア品質に関する暗黙知の形式知化と、最新テーマの整理・体系化したもので、ソフトウェア品質技術の認知度向上やソフトウェア品質プロセスの確立をめざす組織の支援となることを目指し策定した日本発の知識体系のガイドブックです。

ソフトウェア品質体系がカテゴリ、知識領域ごとに樹形図として描かれており、総論的に把握することができます。

国内で蓄積された知識だけにとどまらず、国際規格や国際的なプラクティスなども含まれています。

SQuBOK®を活用することにより、各企業・団体等のソフトウェア品質の価値向上の一助となれば幸いです。

SQuBOK®ガイドβ版は日科技連 Web サイトよりダウンロードすることができます。

また、SQuBOK® V2 を 2013 年に出版の予定をしています。

<http://www.juse.or.jp/software/squbok-beta.html>

※SQuBOK®は(財)日本科学技術連盟の登録商標です。

※SQuBOK®は(財)日本科学技術連盟と(社)日本品質管理学会との共同策定部会による研究成果物です。

また、SQuBOK®は書籍としてオーム社より発行しております。



## ソフトウェア品質知識体系ガイド -SQuBOK Guide-

- ・著者：SQuBOK®策定部会編
- ・定価：3,675円  
(本体3,500円+税)
- ・B5変 400頁
- ・ISBN 978-4-274-50162-3

※SQuBOK®ガイドの改訂(アmendメント)等はWebにて公開しております。

## 『SQiPコミュニティ』へのお誘い

ソフトウェア開発において、品質保証担当、開発者、テスト技術者、PLやPM、保守運用技術者、教育担当者、そして経営者には、自社のソフトウェアやサービスの品質を如何に向上させていくべきかについて悩み、日々考え、情報を収集し、工夫している方々がたくさんいます。しかし、悩みを共有し議論したり、クチコミで情報を交換したり、技術や工夫を教え合ったりする場が少ないのも事実です。プロセス改善やテスト、アジャイルなどの技術分野に限った場は多く見られますし、有償の場もいくつかありますが、ソフトウェアの品質全体について気軽に交流できる場はほとんどありません。

SQiPコミュニティは、ソフトウェアの品質全般について、悩みを共有し議論したり、クチコミで情報を交換したり、技術や工夫を教え合ったりする無償で気軽な場です。主な活動はメーリングリストになりますが、希望する方がいればオフラインで勉強会を開催することもあります。ソフトウェアの品質向上に興味がある方なら、どなたでもご参加できます。実名でも匿名でも構いません(メーリングリストには公表しませんが、事務局には実名を登録していただきます)。右記の情報とともに「SQiPコミュニティ参加希望」という題名で事務局(sqip@juse.or.jp)までメールをお願いします。

皆様のご参加をお待ちしております。一緒にソフトウェア品質の悩みを解消していきましょう。

### メールへのご記入内容

- 名前
- 所属先(部署名・研究室名まで)
- 所属住所/電話番号
- 匿名希望か否か
- 匿名希望の場合はニックネーム
- メールアドレス

## 『SQuBOKユーザー会』のご案内

SQiPでは、SQuBOKガイドの活用ノウハウの共有およびSQuBOKのユーザーからの声をSQuBOKガイドそのものにフィードバックすることを目的に『SQuBOKユーザー会』を設けております。

SQuBOKは2007年11月に刊行されてから、関連のセミナーや講演等の啓蒙活動が活発に催されています。

2008年10月にはアmendメント(部分更新情報)も公開され、更にSQuBOK第二版へのエンハンス作業も計画されています。また、SQuBOKを主参考書とした「ソフトウェア品質技術者資格認定制度」が2008年12月から開始されました。このように、SQuBOKはソフトウェア業界に広く展開されるとともに、着実な進化を続けています。

しかしその反面、「SQuBOKをどう活用したらよいか、よく分からない」という声も、時々耳にすることがあります。

SQuBOKを活用して自身の仕事に活かし、更にはSQuBOKそのものをユーザーの視点から進化させていくために、『SQuBOKユーザー会』で、皆さんで議論していきませんか?

『SQiPコミュニティ』のメンバーであれば、どなたでもご参加いただけます。

『SQuBOKユーザー会参加希望』という題名で事務局(sqip@juse.or.jp)までメールをお願いします。

皆様の多数のご参加を、心よりお待ちしております。

### メールへのご記入内容

- 名前
- 所属先
- メーリングリストに登録するメールアドレス

# ソフトウェア品質国際ワークショップ (SQiP 海外調査団)

1989年から毎年、世界各地のソフトウェア関連の組織・企業などを訪問し、日本のソフトウェア品質の向上と技術者のスキルアップ、技術交流、パートナー交流を深めることを目的に海外調査団を編成・派遣しています。

特に、ここ数年は躍進著しい中国、ベトナムなどアジアに焦点をあて、毎年調査団を派遣し、政府関連機関やソフトウェア企業等との技術交流などを深めております。

## 過去の実績

2003年 9月	中国・上海(7社訪問、ワークショップ開催)
2004年10月	中国・北京・上海(9社訪問、企業交流会 SIG開催)
2005年 9月	ドイツ・ミュンヘン(第3回世界ソフトウェア品質国際会議(3WCSQ))
2005年11月	中国・上海・杭州(8社訪問、企業交流会、日中ソフトウェア品質国際シンポジウム開催)
2006年12月	中国・北京・上海(6社訪問、日中ソフトウェア品質国際シンポジウム開催)
2007年11月	ベトナム(ハノイ、ホーチミン)



最新情報はこちらから! <http://www.juse.or.jp/> (ソフトウェア品質>海外調査団)

# Webマガジン Quality One (クオリティワン)のご案内

ソフトウェア品質に関わるすべての方のためのWebマガジン

雑誌『Quality One』は過去2回(1号:2005.9.19、2号:2006.9.14)冊子形態で発行していましたが、2008年度よりWebマガジンとして年4回(2、5、8、11月)発信しております。休憩時やご自宅でのくつろぎタイムなど、あらゆるシーンでQuality Oneをお楽しみください!

**Quality Oneは、  
次の5つのコーナーから構成しています**

- |           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| 1. 品質     | 我が社の品質、私の考える品質 など             |
| 2. 人材育成   | 我が社の人材育成、人材育成施策など             |
| 3. SQuBOK | 『ソフトウェア品質知識体系ガイド(SQuBOK)』の読み方 |
| 4. トピックス  | ニュース、品質関連の動きなど                |
| 5. 憩いの広場  | 健康に関する情報                      |

最新情報はこちらから  
<http://www.juse-sqip.jp/>  
(Quality Oneをクリック)



# 社内セミナー・講演会・実践研修のご案内

～“人材育成”のお手伝いをします!～

日科技連が開催している定例セミナーの内容を社内セミナーとしてご提供します。また、お客様からのご要望に応じて、長年築き上げてきた管理技術教育の実績・ノウハウをベースに、定例セミナーの内容を組み替え、より一層効果が高められる教育内容をご提供します。

組織や職場の様々な問題・課題解決、人材育成、現場力強化にお役立てください。

## 社内セミナー

本ガイドに掲載の定例セミナーの他、ご要望(ねらい・目的)に応じてカスタマイズした様々なスタイル・内容の社内セミナーを企画・実施します。

- ①定例セミナーの内容を組替えた独自のオリジナルな教育内容で実施できます!
- ②開催日程を御社のご希望に合わせて実施できるため、多数の社員を効率的・効果的に教育することが可能です!
- ③効率的実施により、時間的・経費的な教育コストを低減することが可能です!
- ④問題の共通認識や、今後の取組み方や情報を共有化でき、セミナー後はスムーズに自社で抱える問題・課題を解決することが可能です!

## 講演会

社内の品質管理大会・改善発表会・各種イベント等、定例行事での講演会に講演者を派遣して実施します。

## 実践研修

御社の職場の問題・課題の発見、真の原因追究、業務の効率化等を経験豊富な専門講師を派遣して実施します。

## お問合せ先

ソフトウェア品質をはじめ、品質管理全般、品質管理手法、QCサークル、信頼性、多変量解析、実験計画など  
業務支援部 研修開発課 TEL: 03-5378-1225 FAX: 03-5378-1227 E-mail: jusekensyu@juse.or.jp  
大阪事務所 TEL: 06-6341-4627 FAX: 06-6341-4615 E-mail: juseosaka@juse.or.jp  
社内セミナー等に関するご相談、ご質問、お見積もりのご依頼など、お気軽にお問合せください。  
詳細案内、「問い合わせ用紙」はこちらから>>><http://www.juse.or.jp/btrip/index.html>

## 日科技連賛助会員 入会のおすすめ

★本セミナーガイド掲載の事業を会員料金でご参加いただけます★

日科技連では、賛助会員制度を設けております。賛助会員へ入会された企業には、経営管理に関する最新の情報のご提供や事業参加のサービスを行っております。これからもますます充実する日科技連賛助会員へのご入会をおすすめいたします。

### 会員特典

- 年間開催計画等、各事業のご案内をいち早くお届けします
- セミナー等各種事業へ会員特別料金にてご参加いただけます
- 「品質経営トップマネジメント大会」(11月)への無料ご招待
- 最新情報満載の機関誌「日科技連ニュース」をお届けします
- ご要望に応じて社内セミナーの企画・運営などのサポートをいたします

### 会費

1口につき年額50,000円

※初年度のみ入会金10,000円を申し受けます。なお、会費および入会金は消費税対象外です。

### 入会のお申し込み・お問合せ先

財団法人日本科学技術連盟 企画広報室  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-10-11  
フリーダイヤル 0120-207-560 (受付時間:月～金 9:00～17:00)  
FAX: 03-3225-1814 E-mail: jusepr@juse.or.jp

# お申込みのご案内

## ■所定の「参加申込書」を利用する

参加申込書に必要事項をご記入の上、下記のお申込み先宛に FAX または郵送でお申込みください。

## ■ホームページ・Eメールで申し込む

### ●日科技連のホームページから申し込む <http://www.juse.or.jp/>

ホームページにアクセスして「セミナー申込」を選択してください。ホームページ上に掲載されていないセミナー（臨時セミナー、特別セミナー等）は、お申込みができないことがあります。その場合はEメールでお申込みください。

### ●Eメールで申し込む [regist@juse.or.jp](mailto:regist@juse.or.jp)

下記の①～⑥の項目を明記の上、上記Eメールアドレスにお申込みください。

- ①コース名「第〇回××××コース」、②開催日「〇〇月〇〇日」、③参加者名（ふりがな）、
- ④会社名、所属部署、役職、⑤ご連絡先の所在地、電話番号、FAX番号
- ⑥連絡担当がおられる場合は、その方のお名前、所属、役職、連絡先（所在地、電話、FAX）

## ■申込み受付から受講まで

上記のいずれかの方法でお申込みをいただきましたら、開催の約1ヵ月～3週間前に連絡先の担当者様宛に「開催のご案内」「参加券・請求書」等の書類を郵送いたします。お支払いについての詳細は、請求書に記載しておりますが、原則として請求書発行後2ヵ月以内に指定の銀行口座またはゆうちょ銀行振替口座にお振込みください。

### ■キャンセルの取扱いとお願い

セミナー・研究会等にお申込み後、ご本人の都合が悪くなった場合には、原則として代理の方のご参加をお願いします。また、止むを得ない事由により、お客様の都合でキャンセルされる場合には、セミナー受付担当まで FAX またはメールにて事前にご連絡をお願いします。その際、ご連絡の日により、次のキャンセル料をご負担いただきます。

- 【キャンセル料】 セミナー・研究会等の開催日の7営業日前～2営業日前のキャンセル——参加費の20%
- セミナー・研究会等の開催日の1営業日前～当日（開始時間前まで）のキャンセル——参加費の50%
- 事前のご連絡がなかった場合——参加費の100%

### ■セミナーの振替受講について

お申込みいただきましたセミナーに、受講生の方が参加できず、また代理の方がいない場合は、年度内に開催される同じセミナーに「振替受講」ができます（複数回開催するセミナーのみ）。「振替受講」は、一回は無料ですが、二回目以降変更される場合には、通常の参加費に加え、参加費の10%を振替受講手数料として申し受けます。

※振替受講を希望される場合には、必ずセミナー開催日の7営業日前17時まで、セミナー受付担当に電話、メールまたはFAXにてご連絡ください。

## ■お申込み先

日本科学技術連盟 企画広報室 セミナー受付担当  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-10-11  
FAX 03-3225-1814 TEL 03-5379-1233 E-mail : [regist@juse.or.jp](mailto:regist@juse.or.jp)

## 2012年度

### 一般コース参加申込書

●お申込み先：日科技連 セミナー受付担当 FAX 03-3225-1814

コース名（略称可）	回数	開講日	開催地
	第 回	月 日	

※コース名、コードNo.、回数、開講日、開催地の記入漏れがないようにお願いします。

事務局使用欄	参加者名	所属事業所・部課・役職	所在地（郵便番号・住所）	電話	
参加者			〒		
			〒		
連絡先	会社名		事業所		
	所属・役職		担当者		
	所在地	〒	電話	FAX	
			E-mail		
参加費	<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 会員	円 × 名 =	円	賛助会員番号	
備考欄					

※ご記入いただきました企業・組織および個人情報に関しましては、参加申込受付処理ならびに日科技連からの事業情報のご送付のために使用させていただきます。

# ソフトウェア品質に関する最新情報満載の下記URLを今すぐ

(お気に入り、ブックマーク等に是非追加して下さい)

<http://www.juse-sqip.jp/>

「ソフトウェア品質」  
トップページ



「SQiP」  
とは

日科技連では、1980年にソフトウェア生産管理研究委員会(SPC(Software Production Control)研究委員会)を設置以来、わが国におけるソフトウェア製品の品質向上と効果的開発の方法論の確立をめざして、日本的品質管理をソフトウェア生産に適用するための調査・研究・普及を行ってまいりました。ソフトウェア産業への日本的TQMの考え方、方法論、手法等の普及を行い、TQMとソフトウェア工学の「結婚」による新たなパラダイムの構築を目指し、産・官・学による相互研鑽の場を提供し活動してまいりました。

時が流れ、身の回りには様々なコンピュータシステムがあふれ、システムの肥大化、複雑化が進み、今やソフトウェアは多くの製品・システム、社会・経済・産業の基盤となっております。今後ますますソフトウェアの高品質化に対する要求が増えてくるでしょう。

設置当初からSPCの呼称で20年以上親しまれてまいりましたが、説明なしではその意味をなかなか理解いただけない現状に鑑み、2007年に呼称を以下のとおり変更し、活動を行っております。

**SPC (Software Production Control) (ソフトウェア生産管理)**



**SQiP\* (Software Quality Profession) (ソフトウェア品質)**

## 「SQiP活動」

SQiPは、ソフトウェア品質管理技術・施策の調査・研究・教育を通じて、実践的・実証的なソフトウェア品質方法論を確率・普及することにより、ソフトウェア品質の継続的な向上を目指します。



※スキップと呼ぶ

## ●お問合せ先●

財団法人 日本科学技術連盟

教育推進部 第二課 SQiP担当

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL: 03-5378-9813 FAX: 03-5378-9842

E-mail: [sqip@juse.or.jp](mailto:sqip@juse.or.jp) <http://www.juse.or.jp/>